



地域と病院・職員同士の情報共有・情報交換

JCHO NEWS

Japan Community Healthcare Organization NEWS

【特集】第8回 JCHO 地域医療総合医学会開催



令和6年能登半島地震において被災された方々へ心よりお見舞い申し上げるとともに被災地の最前線において尽力されている職員のみなさまに感謝申し上げます

02 東京高輪病院
広報クリニック

03 東京新宿メディカルセンター
× 附属看護専門学校
「防災・減災」企画展示

04 特集
第8回JCHO地域医療
総合医学会

06 トピックス
職場チームによる
業務改善の取組み

09 コメディカル研修

10 ソーシャルワーカー部会
ドクターカー
中京病院

11 病院機能評価
九州病院
JCHOで育成する
総合診療医
横浜保土ヶ谷中央病院

12 Shu's Room

表紙 「能登半島地震」での活動

総評・感想

- 各部署をラウンドして、実情に即した指摘はイメージが付きやすく、その場で改善の提案などもあり、理解しやすかった
- ラウンドを行ってからの講義がとても良かったです
改善案や自分たちでは気づかない部分の指摘がとてもためになりました



有識者と施設ラウンド、講義と質疑応答
JCHO東京高輪病院：広報クリニック
2023.11.28



「リハビリ庭園」改善案
一般利用も可能な表示に

コミュニケーション・
広報活動について、
的確な改善指導を受けました



普段見落としがちな部分を
別の視点でアドバイス



各部署多忙の中で頑張った
成果を感じました！



おつかれさまでした！



職員も地域住民も一人ひとりの防災意識の向上を！
企画展示 関東大震災から100年
～ 過去の災害から学ぶ、防災・減災 ～
JCHO東京新宿メディカルセンター 総務企画課長 中澤 聡



JCHO東京新宿メディカルセンターでは2020年「ナイチンゲール・レジェンド」、2021年「インスリンミラクル」、2022年「私たちのオレンジプラン」と院内にお越しになる方に向けた展示を企画しました。
今回は関東大震災から100年をテーマにしたポスター展示です。作成にあたっては、附属看護専門学校の学生を中心に看護部、コメディカル部門、事務部等が協力し関東大震災の記録や当院の災害対策などを紹介しております。

能登半島地震でも多くの被災者が出ており、JCHO病院も看護師派遣をはじめ医療支援を実施しております。一日も早い復興をお祈りいたします。



外来入口 展示スペース

- 1923 関東大震災
- 1961 ◆災害対策基本法 制定 (1961)
- 1991 雲仙普賢岳噴火
- ◆災害対策基本法 改正 (1995)
- ◆建築基準法 改正 (1995)
- ◆災害拠点病院 設置 (1995)
- ◆JADM(日本災害医学会)(1995)
- 1995 阪神・淡路大震災
- ◆防災士 誕生 (2002)
- 2002 ◆DMAT(2005)
- 2005 ◆災害支援ナース (2011)
- 2011 東日本大震災
- ◆災害医療コーディネーター 誕生 (2012)
- 2012 ◆DPAT(2013)
- 2013 ◆災害専門看護師 (2016)
- 2016 熊本地震
- ◆DHEAT(2018)
- 2018



平成 28 年熊本地震 人工透析患者の階段搬送



壊れた屋根瓦



医療救護班の活動 (久留米総合病院)



DMAT: 派遣要請



DMAT 出動！



被災地で他チームと合流し、活動する DMAT！



2024年1月1日 能登半島地震

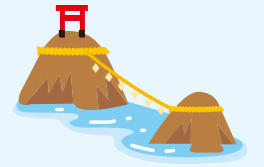


第8回 JCHO 地域医療総合医学会 in Mie

ポストコロナの地域医療戦略

JCHO 四日市羽津医療センター病院長
第8回 JCHO 地域医療総合医学会会長
住田 安弘

2023年12月8～9日、三重県津市県立総合文化センターにおいて、第8回JCHO地域医療総合医学会を開催しました。地域開催第2回目となった今回、約2,000名の参加者と総計537の演題をいただきました。「ポストコロナの地域医療戦略」をメインテーマに、山本修一理事長による講演「医療界の地殻大変動に備える！」内野直樹顧問と島田信也病院長によるディベート「ポストコロナの生き残り地域医療戦略～競争か協調か～」などのセッションが行われ熱い討論が繰り広げられました。参加者の皆様方からは「よかった」との好評を得てスタッフは安堵致しましたが、これもひとえに山本理事長はじめJCHO学会理事の先生方、各病院長・職員の皆様、JCHO学会事務局、並びに本学会に貴重なご厚情を賜りました各界の皆様方に心から感謝申し上げます。



次回開催：2024年11月

宮城県仙台市



尾身 茂 名誉理事長



「職場チームによる業務改善の取組み」：表彰式



特別講演：宮本亞門さん



学会大集合



四日市羽津医療センター病院長
住田 安弘

四日市羽津医療センター



あつまれ HCUの森

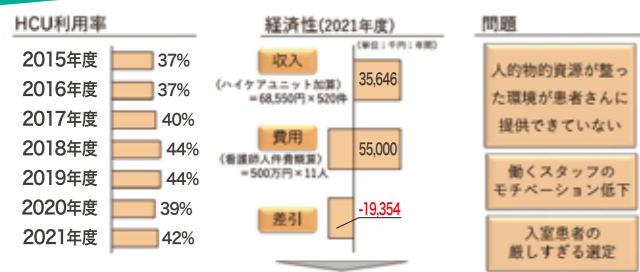
チーム名：あつまれHCUの森
HCU病床利用率UPの取組み
～40%→80%台後半へ～

最優秀賞

HCU 副看護師長 伊藤 香菜子

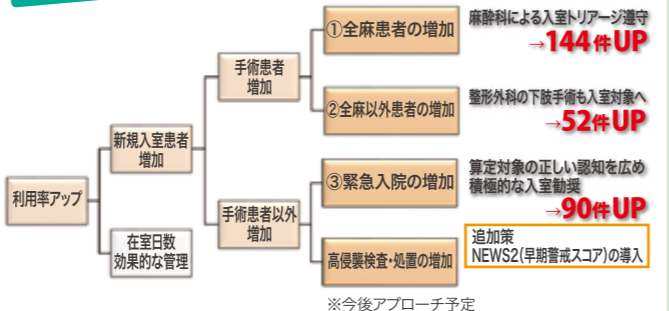
当院のHCUは、平均利用率が40%台と低迷し、様々な問題が発生していました。そこで、患者ケアの充実を図ろうと、2022年度より多職種で取組みを開始しました。まずは、現状分析と課題の明確化を行い、改善策を立案しました。実行にあたっては、麻酔科医とHCU責任医師の全面的なバックアップを受け、初年度終了時点で利用率は70%へ上昇しました。2年目にあたる2023年6月からは、さらなる上昇を目指して追加策を実行し、現在では利用率は80%台後半・稼働率は120%以上となり、病院経営にも貢献できています。そして何より、患者安全・ケアの充実に繋がり、スタッフのモチベーションも向上しています！！

取組みの背景



HCU病床の有効活用により、患者ケアの充実を

改善策と結果

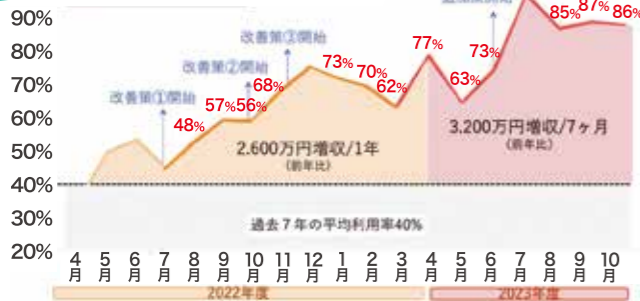


まとめ

- ポイント**
- 細かな現状分析
 - 課題の明確化
 - 具体的な改善策を検討できたこと
 - 医師を巻き込み、多職種で協働
- 現状**
- HCUを有効活用し患者ケアの充実
 - 病院経営に貢献
 - 看護実践能力の向上
 - スタッフのモチベーション向上

今後：HCU必要度の厳格化にも対応し、利用率を維持

病床利用率



病院長より 4床のHCUを有効活用することが、患者様の安全や収益に貢献できたことは大変意義のあることだと考えています。そして何よりスタッフが生き生き楽しみながら取り組んでいることがとても良いと思います。 病院長 住田 安弘

秋田病院附属 介護老人保健施設

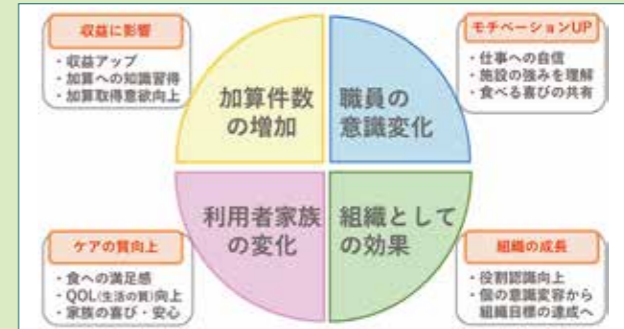


優秀賞

チーム名：カムカム(噛む噛む)エブリディチーム秋田
経口維持加算取得件数増加のための委員会活動の取組み

看護師長 伊藤 志保

今回の取組みは、病院においてDPCや在院日数、食事介助要員などの影響で摂食機能獲得が不十分な状態での退院を余儀なくされている現状の中で、介護老人保健施設の役割を明確に打ち出した取組みです。その結果、経口維持加算取得件数は実施前の4倍に増加しました。また利用者・ご家族の満足度も高く得られ、さらに委員会活動の活性化を通して職員のモチベーションの向上も図れました。これからも、利用者・ご家族の思いに寄り添い、「最期まで口から食べること」を支援していきます。



病院長より 「職場チームによる業務改善の取組み」に初トライでの優秀賞は見事！老健職員の「最期まで口から食べる組織作り」が、形に残せたのも大きい成果です。この受賞を機に、来年度以降の新たな取組みにも期待したい！ 病院長 大塚 博徳

大阪病院



優秀賞

チーム名：栄養管理委員会
栄養科部門(栄養管理委員会)のマネジメント

副栄養管理室長 塩田 恵理都

栄養食事指導増加を目指すだけでなく、周術期栄養管理・早期栄養管理への介入を目的としました。業務を拡張する事が【できない】のではなく、業務内容の見直しを行い、有効かつ有利な栄養管理に着目し、業務の優先順位を整理し、栄養管理の強化に努めました。幾度とミーティングを重ね改善・改革を行っていくことで、目標の達成だけでなく病院収益の増加へと貢献することも可能となりました。医師を主導とし、チーム医療の協力を得ながら管理栄養士の意識や自覚も高まり一層栄養教育に前向きに取り込むきっかけを得ることができました。

年度	総指導件数(件)	月平均(件)	収益(円)
2019年	1406	117	2,873,200
2020年	1985	165	4,742,420
2021年	3327	277	7,809,900
2022年	3810	318	9,463,800
2023年(～10月)	2545	*362	6,153,600

*2023年6月～化学療法(外来)栄養指導の取組み開始し指導件数はさらに増加

年度	件数(件)	収益(円)
2022年(6月～)	2213	5,532,500
2023年(～10月)	1096	2,740,000

年度	件数(件)	収益(円)
2022年(6月～)	2522	6,809,400
2023年(～10月)	2068	5,583,600

病院長より 栄養管理は、医療を安全に行い、治療効果を得る上で欠かせません。国はエビデンスに基づき実施すべき医療に加算を付けて助めています。優先順位を考え、業務を整理し、チームで栄養管理に取り組んで頂いたことを感謝します。 病院長 西田 俊朗

玉造病院



チーム名：骨粗鬆症・転倒予防チーム「TAMATSUKU RE:BONE」

骨を折るのは私達
～骨粗鬆症治療介入と骨折予防への取り組み～

優秀賞

主任診療放射線技師 須田 学

骨粗鬆症マネージャーを中心に多職種が専門性を発揮しながら連携し、一次骨折予防(初発の骨折を防ぐこと)、二次骨折予防(骨折の連鎖を断つこと)を目的とした骨粗鬆症・転倒予防チーム「TAMATSUKU RE:BONE」を立ち上げ、病院全体で活動しております。

今回、優秀賞を受賞できたのは、スタッフの日々の努力と「骨折させない!」という熱い情熱の賜物だと考えております。今後も全職員が一丸となり、新たなことにチャレンジしながらチーム活動の継続と質の向上にコツコツ努めてまいります。



多職種が連携して、今後も地域の一次及び二次骨折予防に貢献できるようバックアップしていきます。受賞に関しては、最優秀賞を確信していたので悔しい思いをしています。

病院長 池田 登

宮崎江南病院



チーム名：お薬おまかせ隊

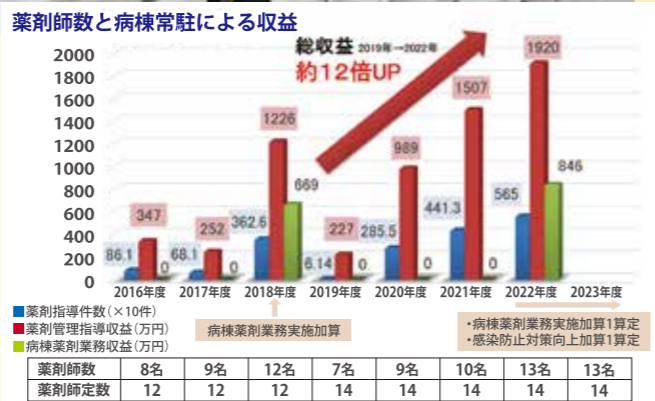
みんなで病棟に上がろう!

優秀賞

薬剤師 白尾 桂香

この度は、優秀賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に思っております。

病院薬剤師不足が社会的にも注目されるなか、当院も薬剤師確保に苦労しています。しかし、薬剤師確保に向けてのリクルート活動・業務の見直し・教育の充実を図りながら、薬剤師を確保することが出来ました。その結果、一度は算定できなくなった病棟薬剤業務実施加算を算定できるようになり、病院経営にも貢献できるようになりました。今後も病院に必要な部署として経営およびチーム医療の一員として貢献できるよう努力したいと考えております。この度は誠にありがとうございました。



病院薬剤師不足は深刻で、当院においても病棟薬剤師業務が出来ない状態でした。医師の働き方改革が本格化する中、薬剤師の役割は益々重要です。病院薬剤師が遣り甲斐をもって働ける環境づくりも大切だと思いました。 病院長 白尾 一定

令和5年度 メディカルスタッフ
中間管理職研修(Web) 開催



研修目標

- ① JCHOにおける人事制度・病院運営・組織・経営改善に向けた取組について理解する。
- ② 職場における主任等のあり方・役割・立場を理解する。
- ③ プレーイングマネージャーとしての自身の役割を理解し、認識した行動がとれる。

令和5年度メディカルスタッフ中間管理職研修は、医療職基本給表(二)の中間管理職を対象に、組織人育成のため総勢288名参加、11月6日・15日の2日間の研修会を開催しました。

参加者の課題(ハラスメント、労務環境改善、人材育成、業務改善、経営改善、チーム医療強化等)に対して、解決の一助となればと思います。資料作成および開催にご協力頂きました本部および地区事務所の皆様、この場をお借りしてお礼申し上げます。

参加者の声



仙台病院
管理栄養室副室長 横田 悠里

副室長という立場で自分の役割について迷う事が多い中、リーダーシップやマネジメント等について具体的に学ぶ事が出来ました。日々の業務で意識して実践していきたいです。

東京蒲田医療センター
主任理学療法士 中里 真紀子

研修で学んだ、概念化能力・対人関係能力・業務遂行能力のうち、特に概念化より学んだスキルを活かし、トップからの伝達事項を咀嚼し、スタッフへ浸透させる実践が出来ました。学ぶことが良い判断につながると感じました。

大阪病院
副臨床検査技師長 岡崎 友美

受け身の講義だけでなく与えられたテーマについて受講者同士でディスカッションも行いました。職種を超えての意見交換や丁寧な講義を通じ、自身が今やるべき職務について学びを深める事の出来た有意義な一日となりました。

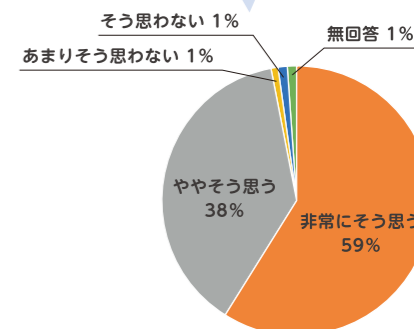
四日市羽津医療センター
主任臨床工学技士 西村 直樹

組織・人事・労務・経営分析と研修が行われ、これらを意識することが一般職とは大きく異なると感じました。ディスカッションを含めたリーダー研修を行い、同じ立場にあるスタッフと悩みや心情を共有できとても有意義な時間となりました。

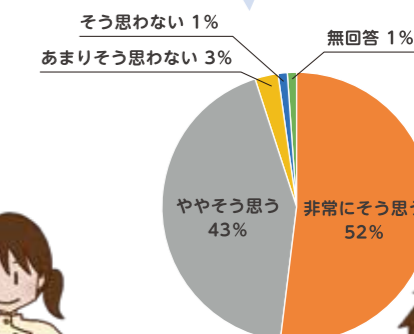
薬事専門職一同

- ・茂野 健司(北海道東北)・伊藤 典子(関東)
- ・伊藤 和幸(東海北陸)
- ・辻川 正彦(近畿四国)・藤井 憲一郎(九州)
- ・片山 歳也(本部)

研修は有意義でしたか?



今後の業務に活かせると感じましたか?



可児とうのう病院
主任薬剤師 兼松 哲史

中間管理職研修に参加させていただき、自分自身の部署内での役割について再確認することができました。部下への対応、部署内における問題解決へのアプローチについての糸口をつかむことができたと感じています。

九州地区
放射線技師

全体的に定期的な継続を希望する意見が多く、グループワークを通じた多職種との意見交換は有意義であったとしています。今後、部下の成長を考える研修を希望する意見もありました。

ソーシャルワーカー部会 待ちに待った部会立ち上げと JCHO学会での集結

JCHO東京山手メディカルセンター
ソーシャルワーク室 主任医療社会事業専門員
柳田 千尋



ソーシャルワーカー(SW)部会は、医療社会事業員、社会福祉士、精神保健福祉士で構成。
今回は、分科会役員の紹介です。よろしくお願いいたします。
諫早:土井「SWは様々な困難な問題に対応しており、そんな問題を気軽に相談し合えるような部会にしたい」
星ヶ丘:亀谷「メディカルスタッフの研修事業拡大があり、部会として推進体制を整え、盛り上げていきたい」
桜ヶ丘:中村「部会設立に少しでもお手伝いできればと立候補」
東京山手:柳田「SWの地域展開への知恵を出し合いたい」
仙台:鈴木「全国の仲間と様々なことをシェアしたい、仙台学会を楽しみにしています」



横浜中央:佐野
スライド制作担当



救急救命士と救急車が JCHO にやってきた!

JCHO中京病院
副院長 ICU部長 感染対策室部長
真弓 俊彦



2022年、2023年から計4名の救急救命士(以下、救命士)が採用されました。今後は2024年にさらに2名を採用し6名体制とすることにより24時間対応する体制を整備、そしてこの体制をより充実させるため、2027年度までには9名体制を目指します。救命士の採用は、全国のJCHO病院のなかでも初めてで、注目を集めています。

病院で勤務する救命士も、救急車に乗っている消防の救命士と同様に救急外来で種々の処置を行えることになりました。看護師のタスクシフトにも大きな貢献をしています。

救急救命士の活躍により救急外来の勤務医及び看護職員の負担軽減につながり、名古屋市等からの救急搬送件数の増加及び救急応需率の向上につながっています。



病院機能評価 受審レポート

「病院機能評価受審～終わりは新たな始まり」

JCHO九州病院



JCHO九州病院 看護部 副看護部長 尾野 肖子

昨年10月、5度目の病院機能評価を受審しました。新しい審査3rdG:Ver3.0の内容・方法からは、いかに恒常的に適切な医療を実践できているかを問われました。受審の意義は、自院の強み弱みと向き合い課題が明確化されること、受審準備に向け病院全体が一丸となることです。ほとんどの項目で「A適切」以上の評価を受け、ひと段落したところですが、5年に1度のイベントとならないよう、病院機能評価委員会が発足されました。継続的な取り組みを新たなスタートとして、地域にとって最適な医療の提供を目指していきます。

JCHOで 育成する 総合診療医

JCHO病院で地域医療の教育を

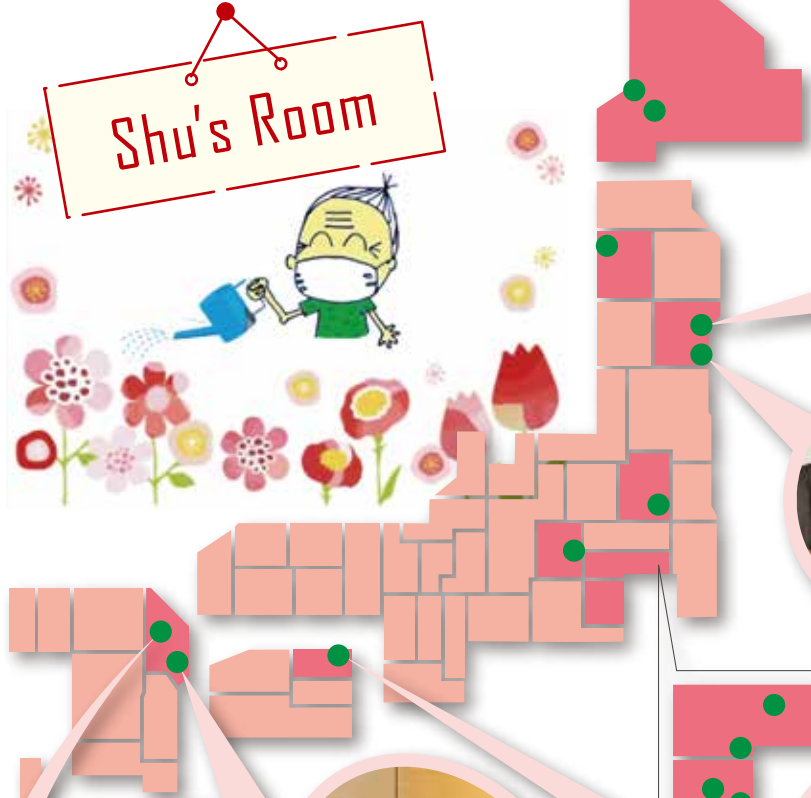


新宿の地域ケア視察研修の様子
「暮らしの保健室」代表 秋山正子さん(中央)と共に
左から米国の家庭医療指導医、ブラジルの内科研修医、
清水部長(新宿)、八百医長(保土ヶ谷)、医学生

JCHO横浜保土ヶ谷中央病院 総合診療科 医長 八百 壮大

JCHO発足時に旗印として始まった総合診療医の育成は、早いもので10年となりました。この間、当院の総合診療科は少しずつ地域に裾野を広げ、今では在宅医療を行っており、地域の様々な機関と連携をしています。さらに地域医療教育の場として、年間50名もの実習者(医学生や研修医、外国人医師)が訪れるようになりました。本部の協力の下、JCHO病院間でのオンライン勉強会で、専攻医の振り返りや指導医講習会が発足しましたし、年に一度のJCHO学会では、全国の仲間と対面で語り合える仲です。横の結束が年々強くなっていると実感しています。さて2024年4月より、JCHO病院(新宿、人吉、湯河原)と連携した当院の総合診療専門研修プログラムで、一期生の専攻医を受け入れます。都市部も僻地も、地域包括ケアのプレイヤーとして期待される私達は、今後も良い教育の場を構築できるよう、日々楽しく実践を重ね、いっそう地域医療に貢献して参ります。記事を読んで興味を持ってくださった方は、お気軽にいつでもご連絡をください。一緒に進みましょう!

●:2023年度訪問施設



仙台病院



仙台南病院



りつりん病院



南海医療センター



湯布院病院



大分大学学長訪問



佐伯市長訪問



独立行政法人
地域医療機能推進機構
Japan Community Healthcare Organization



JCHOは、今後も他の医療機関等と協力しながら、引き続き支援活動に取り組んでまいります